

北 ^{く に}地域づくり・^{ゆ め}未来づくり

Monthly Hokkaido Magazine

月刊
イズム

ISM

掃き溜めの北海道から脱却
すったもんだの新幹線工事

食料・農業を守ることは国民の義務とせよ
生産者に罰則を科す前にやるべきことがある



シリーズ表現者たち 中川貴之さん
(16ページをご覧ください)

2024
July
定価570円

7

地域の資源でやっていく

厚真町に製材工場を建設

木の種社代表 中川 貴之 さん



と思つて転職したのが広葉樹の製材所だった。

あるとき、中川さんが勤める製材所に厚真町の担当者が視察に来た。厚真町にとって林業は、農業と並ぶ基幹産業。森林資源を活かし、産業として成り立たせるには製材所が必要だった。厚真町では地元での起業を条件に地域おこし協力隊の制度を積極的に活用していた。

山の木を伐り、丸太に整え、搬出し、製材所で木材にして、出荷・販売する。伐った跡には苗を植え、下草を刈り、枝を払い、間伐し、木の成長を見守る。数十年〜100年のスパンでものごとを考える。それ

が林業という産業だ。厚真町で製材業・木の種社を営む中川貴之さんは、大学の環境系学科を卒業後、林業会社に就職。だが、効率よく木を伐るだけの仕事に、「もう少し奥の深い仕事がしたい」

真町に移住しました」

ところが来てみると、製材所を作るという案は雲散霧消。震災からの復旧が最優先だったからだ。地元で4社あった林業会社もばたばたと廃業し、残ったのは1社だけ。林業で働く人も減ってしまった。

「林業の経験があるなら仕事を受けてみないか」と言われ、一人親方のような形で植林や下草刈りの仕事をしながら、手押しの製材機を借りて丸太を挽き、作業小屋を建てたり、フローリングや外壁材を試作していました。生活費は協力隊員としての給料で賄い、林業で稼いだお金は製材所建設資金に充てることがで

きました」

協力隊としての3年間が過ぎ、経産省がコロナ対応のため設けた事業再構築補助金に応募。金融機関からの借入も得て、製材工場建設に漕ぎつけた。工場の建屋はすべて地元のカラマツ材を使用。未乾燥の生木で、45×210×6750mmの板を組み合わせている。柱は3枚重ねてボルトで締め、小屋組は2つのトラスと片流れの屋根にした。

「カラマツは林業会社で頼み、まっすぐの原木が出たときに丸太で取り置きしてもらって、それを自分で板に挽きました。捻じれの出やすい材で、柱などの角材にすると捻



4種類の木を使ったテーブル



製材工場

製材機で板を挽く中川さん

じれてしまいましたが、板にして捻じれる前にボルトで止めてしまえば大丈夫」

木工場で使わなくなった製材機を移設し、昨年12月に設置。製材工場の体制が整った。

「工場建屋をすべて地元のカラマツで建てたのは、身近にあるものでやって行くという暮らし方を、林業や製材業を通じて取り戻していきたいというコンセプトがあるからです」

地方には森林資源がある。資源を得ることから始まり、加工する人、売る人が集まってくる。かつてはそうやって地域経済が回っていた。産業が空洞化し、過疎化が進んだのは、「安い外国産に頼ったり、工場を集約して大量生産した方が効率的」という考え方が浸透し、「身近にあるもので暮らしていく」ことをしなくなってきたからだ。

「林業に就職しようとしていたころ、『林業や木材産業は斜陽産業。そんな仕事はやめた方がいい』とみんなに言われました。私は逆に『今の時

代だからこそ必要とされる仕事』だと思っています。コスパの良いものを求める一方で、それに抗う人もちゃんといえます。林業をやる人は減り、製材所も次々となくなっています。が、建築の需要はある。デザインを重視し、地元の材料を使いたいという価値観を持つ人もいます。山に木はあるのですから、今、製材所をやる意義があると思っています」

農家のように自ら山を所有し、木を植え、手入れをして育て、伐採し、製材し、出荷・販売する人を「林家」と呼ぶ。

「育てたい木を植え、それを伐って製材して、それを求める人に提供することができたらいいですね。今は板材しかできませんが、将来は住宅を建てられるよう乾燥機を導入して構造材もできるようにしたいと思っています」

中川さんは一般社団法人ATSUMANO K I 96の代表理事も務めている。厚真産の木を商品化することを目的に設立。中川さんのほか、(有)丹羽林業3代目・丹羽智大さん、

西壁馬搬代表・西野将世さん、森林の入り口代表・永山尚貴さん、morinov代表・板野昇平さん、WOOD I K O R代表・鈴木大輔さん、ハインド代表・N a t t eさんの7人とサポーターの建築家・金澤享史さんが厚真町に集まった。

「木を伐るだけではモノは作れないし、モノを作るだけでは地元から木を調達できない。ならば塊になってやればできるんじゃないか。この町に木を伐る人、製材する人、デザインする人、プロダクトを作る人がそろっています」

「地域にある資源でやっていく」「森を引き継ぎ将来に残す」「木を活かす技術を残す」の3つをテーマに森づくりや製材業に精を出す中川さん。4種類の木を使ったテーブルを考案するなど、地元の木を活かした取組みにも力を入れている。(堀武雄)

●木の種社

厚真町美里204

TEL 0145・29・8020

MAIL <kinotane.01527@gmail.com>



あばしりを、走ろう

網走市

オホーツク 網走マラソン

10回記念大会

9月29日(日) 開催



遂に10回目！オホーツクの
絶景を走り抜ける6時間半

道東の初秋を代表する大人
気イベント「オホーツク網走
マラソン」が、今年も9月29日
(日)に開催されます。

2015年に始まった同イ
ベントも、いよいよ今年が記
念すべき10回目の開催。スタ
ートから2017、19、23年大
会において「全国ランニング
大会100撰」にも選ばれ、近
年では22、23年の2大会連続
で、参加したランナーから、R
UNNET大会ランキングフ
ルマラソンの部で全国第1位
の評価を受けています。

定員は3000

人。ナンバーカー
ドとランナーズチ
ップが送付される
一般エントリー
(事前発送)は4月
1日～7月19日
(金)まで。前日受
付エントリーは7
月23日(火)～8
月16日(金)まで、
大会ホームページ
で受け付けていま
す。

当日は、網走屈
指の観光スポット、

日本最北端の刑務所「網走刑
務所」前を午前8時45分にス

タート。国道39号を

走って駅前を抜け、

オホーツク海の美し

く輝く青々オホーツ

クブルーを右手に

眺めながら海岸線を

疾走します。

急激な「激坂」のほ

か、小刻みなアップ

ダウンを経て、14・

4kmでコース随一の

絶景スポット・能取



オホーツクの絶景を眺めながら走る能取岬コース

岬に到着。この岬は、数々の映
画やコマースシャルのロケ地と
しても有名で、オホーツク海
や能取湖、知床連山が一望で
きます。

全長1030mもある美岬
トンネル、絶滅危惧種として
知られるサンゴ草の群生地・
能取湖を望むコースを抜け、
かつて網走刑務所の農場であ
った自然豊かな大曲湖畔園地
のフィニッシュ会場へ。14ヘ
クタールに及ぶ秋のひまわり
が一面に咲き誇り、ゴールす



るランナーたちを出迎えます。

網走の味覚、参加賞も充実

コースの5 km以降、約2・

5 kmごとに東京農業大学の学生が中心となつて運営する元気エイドステーションを設置しており、しみじみや和牛など、網走自慢の味覚がたっぷりと味わえます。フィニッシュ



10周年記念特典、オホーツクあばしり和牛(上)と、網走特産ホタテ(下)



ユ会場では、ランナーをはじめ、来場者にも楽しんでもらえるように飲食ブースが用意されています。

マラソンの部の参加賞はY A M A t u n e 製10回記念ソックス、ランニングキャップ、おもてなしブース飲食券、5 km・3 kmコースの参加賞はスポーツタオル、さらに参加者

全員にオリジナルソックスがプレゼントされます。

フルマラソンを完走したランナーには、網走刑務所で



フルマラソン完走者に贈られる焼き印入りオリジナルメダル

い100の倍数の順位でゴールしたランナーに、網走特産ホタテ1 kgがプレゼントされます。

大会当日は、フィニッシュ会場にフォトスポット用バックボードを設

置。家族や友人などと10回記念大会の素晴らしい思い出が残せます。

例年、フィニッシュ会場

で展開している、柔道整復師・理学療法士による無料ストレッチサービスを提供し、引き続き設置されます。

また、フィニッシュ会場に用意されたラウンジテントでは、10回連続完走者に1フード・1ドリンクのサービスが提供され

豪華な10回記念特典の内容

10周年記念の特典として、マラソン種目別で、切りのい



大曲湖畔園地のフィニッシュ会場

ます。今大会には同マラソンの小澤友基隆実行委員長も出走。一緒に参加するフルマラソンランナーの人たちが、委員長の走行タイムを予想した人5名に、人気のブランド牛「オホーツクあばしり和牛」500 gがプレゼントされます。

●オホーツク網走マラソン事務局
〒093-8555 網走市南6条東4丁目 網走市役所内
TEL 0152-612360



食料・農業を守ることは国民の義務とせよ … 4

食料供給困難事態対策法「違反行為をした者は、二十万円以下の罰金に処する」

生産者に罰則を科す前にやるべきことがある … 6

すったもんだの北海道新幹線工事

開業時期さえ見通せず … 10

新連載 松本脩三 望郷の捉捉 第1回 1941年11月、単冠湾にて

湾を埋め尽くす大艦隊 … 14

未来づくり
表現者たち

地域の資源でやっていく 木の種社代表 中川 貴之 さん

厚真町に製材工場を建設 … 16

異見録
ISM流

■ I S M創刊時の専務取締役 故茂庭譲に捧げる

■ シベリア抑留体験の労苦を語り継ぐ 逸れてしまった尋ね人探しも

■ 姑息かつ「不正不公」な政治資金規正法改正合意

… 18

カラー特集

あばしりを、走ろう オホーツク網走マラソン10回記念大会 9月29日(日)開催 網走市 … 24

60周年を迎えた

北海道農業近代化技術研究センター 水と土壌の保全を一筋に60年 … 27

掃き溜めの北海道から脱却する … 28

国に網羅的指示権を与える
地方自治法改正案

地方自治の本旨に反す … 32

原野に出現した日ハム城下の不満 ジャーナリスト 黒田 伸 … 36

酪農学園大学研究室探訪 —vol.45 農食環境学群食と健康学類農産資源科学ユニット 小泉 次郎 講師

美味しさと健康機能両立 … 40

～この町こどのはじまり～ 幻は消え「自然」に帰る羽幌町 … 42

札幌のごみ処理行政に貢献 一般財団法人 札幌市環境事業公社 … 44

経済・情報
ニュースクリップ

● 奥尻町、ヤマト運輸、セコマ三者で災害協定など締結-セコマ

● 味噌工場が国際規格「FSSC22000」取得-福山醸造

● 令和6年度通常総会を開催 「早期一括返還」スローガンに-千島連盟

… 45